

四日市版コミュニティスクール報告書（令和2年度総括）

四日市市立三重平中学校

校長 寺脇 法夫

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

地域の教育力を学校運営及び教育活動に活かすことができるよう保護者や地域のみなさんが主体的に参画・支援できる仕組みを整え、地域・家庭・学校が連携・協働し、学校づくりビジョンに掲げる「笑顔いっぱいの学校」の実現を目指します。

また、四日市版コミュニティスクールとしての取り組みを進めることにより、三重西地区・神前地区にまたがる本校の校区に、地域・家庭・学校が一体となって生徒たちの健全育成を図るための子ども支援ネットワークの構築に努めていきます。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（1）「学習意欲の向上」の取組

○地域子ども教室の開催

・本校の課題の一つである学習環境が整わない生徒たちに放課後の学習支援の場を提供し、学習習慣の定着を図り、学習意欲の向上を目的とする「地域子ども教室」を次のように開設しています。

①三重四丁目集会所での「地域子ども教室」

中学校の職員会議・研修会などで部活動のない 月曜日 15:30～17:00

②中学校学習室での「放課後教室」

定期テスト週間等平日 週2～3日
（不定期）16:00～17:00

③「夏休み・冬休みの地域子ども教室」

- ・学習の進め方は、生徒たちが自分の学習したい教材に取り組み、スタッフが質問に応じながら学習の指導・支援を行う形態をとっています。
- ・参加生徒数のべ412名の生徒が参加しました。スタッフの数はのべ120名以上で、開催回数は新型コロナウイルス対策で4、5月の開催はできなかったものの、例年の開催数の約80%である41回という実績でした。
- ・今年度は、全学年を対象とし、生徒の様々な学習状況（日本語が苦手な外国籍の生徒等）に合わせた支援をしていただきました。
- ・子ども教室が、単なる学力UPの場ということだけではなく、まさに生徒たちの居場所となり、普段学校では見せないような生徒たちの姿を目の当たりにして、改めてスタッフのみなさんが多様な生徒たちを受け入れながら、学習の指導・支援を進めていただいたことに感謝します。



○ 漢字検定の取組

- ・ 三重平中学校学習室での漢字検定（8月）

漢字検定は、比較的容易に取り組める資格試験であることから家庭での学習習慣の定着をねらい、実施して6年目を迎えます。中学生に限らず、小学生からその保護者にも対象を広げ、参加人数が年々増加しています。

(2) 地域との交流

- 高齢者との交流がコロナ禍で中止に

例年福祉委員会は活動の一環として、神前地区社協主催の「より曾井サロン」、に参加し、夏休みに交流を行っています。今年度は感染リスク等を考慮し参加を断念しました。

- 地域行事への参加も見送りに

毎年12月に神前地区社協の主催する「大日山ふれあい事業（里山保全活動）」に部活動単位でボランティアとして参加していますが、やはり感染リスク等を考慮し参加を断念しました。

また、三重西地区の活性化と地域の一体感の醸成を図るため、平成26年8月に「三世代交流フェスタ」が企画され、三重平中学校PTAも毎回参加しています。三世代交流という趣旨から本校PTAはこのイベントに出店するブースの運営にボランティアとして参加する生徒たちを募集し、生徒たちと共に事前の準備から一緒に取り組みますが、今年度はこの行事自体が中止になってしまいました。

- 地域防災リーダーによる防災教室

地域防災リーダーの方に来ていただき、防災訓練を行いました。炊き出し訓練では、アルファ米を三重西地区自治会から提供していただきました。「CS委員長からの、大きな災害が発生した時に、地域の働き手として中学生の活躍が期待されているというお言葉が胸に響きました」と感想を書く生徒が多くいました。



3 今後に向けて

「学習意欲の向上」への取組として、地域子ども教室の定期的開催に努めてきました。地域子ども教室は本校コミュニティ・スクールの活動の目玉であり、生徒たちの「居場所」としての役割を担うことも大きな意味があります。今年度は、学習ボランティアとして複数の大学生が参加し、この取り組みを通して地域の縦のつながりも広がりつつあります。生徒たちの学力や学習意欲の向上だけではなく、この教室での生徒たちと地域スタッフとのかかわりは確実に「つながり」を生み出していると実感しています。次年度は例年通り5月当初から全学年を対象に参加できるようにしていきます。

本年度の生徒アンケート（全学年）「あなたは地域の行事や活動に参加していますか」の問いに対して、「あてはまる」「概ねあてはまる」と回答した生徒は、昨年を下回る60%弱でした。コロナ禍により様々なイベントが中止になった影響は大きかったといえるでしょう。今後は、地域との交流を生徒たちにあらゆる機会に呼びかけて、コロナ禍であっても参加する生徒たちに「地域に貢献している」ことを感じさせ、自己有用感を高めさせたいと考えています。

生徒たちは、小学校の頃から地域との交流・地域からの支援をいただきながら成長してきました。現在は、コロナ禍で地域との交流の制約は大きいですが、「できるところから」「できる形」で地域との交流を進めていきます。

そして、災害時等いざという場合に、中学生の役割は大きく、日頃から地域とのふれあいを深め、つながりをつくっておきたいと考えます。1年生が地域の人と防災教室を行いました。こうした取組が大切であり、今後も継続していくつもりです。

別紙B

令和2年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立三重平中学校

委員長 根来 進

校長 寺脇 法夫

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回運営協議会開催文書配付	
6	第1回運営協議会（6月2日）	地域子ども教室開始（6月15日～）
7		
8		夏季休業中の子ども教室の開催 漢字検定（8月20日）
9		土曜活動において親子除草に参加（9月19日） 体育祭参観（9月24日）
10	第2回運営協議会（10月23日）	授業の様子を視察
11		文化祭参観（10月30日）
12		
1	第3回運営協議会（1月28日）	学校評価（学校関係者評価）
2	CS委員長による学校関係者評価 「様式3」の承認	
3		1年生防災教室（発電機試運転等）